



今の時代に研究ができる幸せ

【受賞タイトル】 計算機による音楽・音声の理解とそれに基づく音インタフェースの研究

後藤 真孝 産業技術総合研究所

このたびはこのような名誉ある賞をいただき、とても励まされ、嬉しく思っている。研究は決して一人の力でできるものではなく、一緒に研究に取り組んできた多くの仲間や、ご指導、応援して下さった諸先生、諸先輩の方々、自分に与えられた研究環境のすべてに深く感謝したい。

受賞対象となった音楽情報処理の研究に取り組み始めたのは17年前で、当時はまだその重要性は認知されておらず、なぜ研究するのかをよく聞かれる状況であった。しかし、1990年代後半になってMP3が普及し始め、2000年代に入って音楽配信が普及するようになると、状況は一変した。世界中で新たな研究者が参入して増え続け、たとえば過去5年間で65人以上の新博士が国内外で誕生している。このように今日では、新しい重要な研究分野であるとの認識が広がりつつある。ここまで変わったのは、将来すべての音楽がデジタル化され、創作・配信・利用・共有されることを、人々が実感として理解し始めたからである。そこでは、新たな音楽インタフェース、音楽情報検索・推薦等に関する需要が高く、学術的にも「複数の音が相互に関係し合いながら時間的な構造を形成して内容を伝える」信号の理解という未解決で本質的な課題を持つことが、多くの研究者に注目されている1つの理由である。

受賞対象の研究では、基礎研究として「計算機による音楽音響信号の自動理解」に取り組みつつ、その応用研究としてさまざまな「能動的音楽鑑賞インタフェース」を実現し、音楽理解研究が人間の音楽の聴き方をどのように豊かにできるかを明らかにしてきた。また、分野全体の発展を願って、研究目的で自由に使える世界初の著作権処理済み音楽データベースを構築し、国内外300組織以上に配布してきた。さらに受賞対象には、1998年から始めた音声認識の応用研究も含まれ、従来無視されがちだった非言語情報を活用した一連の音声インタフェースを実現してきた。近年は音声情報検索用Webサービス「PodCastle」も一般公開して貢献している。

こうした研究を通じて実感しているのは、今ほど情報処理研究者にとって楽しくエキサイティングな時代はないのではないだろうか、ということである。以前には考

えられなかった膨大な計算を駆使し、高速なインターネットを活用した研究が自由自在にできるだけでなく、世の中やユーザとの距離が年々縮まっていくのを感じている。最近ではWebサービスとして自分たちの技術をユーザに使ってもらったり、研究者のWebページだけでなく動画共有サービス上でデモンストレーション動画として世の中に技術紹介したりすることも容易になっている。1990年代に夢見ていた世界が、今、ここにある。

学生時代は「楽しい」という気持ちだけで研究をしていたころもあったが、今はこの分野の発展を通じて世の中に貢献することが、研究者としての使命だと感じて研究に取り組んでいる。分野の発展において個人の独創性は不可欠だが、より大きな貢献をするには、競い合うより協調することが大切である。学会はそのために重要な役割を果たし、成果を発表する場、新たな知見を勉強する場であるだけでなく、人と人が出会う場、社会性を育ててもらえる場でもある。組織の壁を越えて多くの人たちと出会い、一緒に仕事ができただけは学会のおかげだし、研究会の主査や運営委員等として組織の中とは違う役割を経験できたことで、多くを学ぶことができ感謝している。

現在、世の中は情報処理技術への依存度をますます増しつつあり、未来の情報社会を築く上で、我々研究者の果たすべき役割は大きい。論文を書いて再利用可能な知見を伝えることは、もちろん重要である。しかし、世の中に影響を与えてより良く変えていくことこそが研究の醍醐味であり、予算を獲得して論文を書くだけでは味わえない楽しさがある。好きな研究をさせてもらっている喜びと責任をかみ締めつつ、今後も研鑽を積みながら世の中に貢献していきたい。そして、これからの情報処理技術が主役な時代を、他の研究者や産業界の方々々と力を合わせて楽しく切り開いていければと考えている。

(平成 21 年 6 月 1 日 受付)

後藤 真孝 (正会員) m.goto@aist.go.jp

1998年早大大学院博士後期課程修了、博士(工学)。現在、産業技術総合研究所情報技術研究部門メディアインタラクション研究グループ長、統計数理研究所客員教授、筑波大学大学院准教授(連携大学院)、IPA未踏ユースPMを兼任。